



# Future Report 2024

2024.01.01 - 2024.06.30

フューチャー株式会社 TSE PRIME SECTION:4722



ごあいさつ

## 先進テクノロジーの実装とあらゆる分野におけるノウハウの活用で 新しい時代に求められる価値を創出し続ける

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

フューチャーは、経営戦略とIT戦略の両輪でデザインするという理念のもと、多種多様な業種・業界のお客様の未来価値を最大化させることをミッションとしています。戦略的ITをお客様に提供する「ITコンサルティング&サービス事業」と、培ってきたノウハウをアントレプレナーシップで実践する「ビジネスイノベーション事業」のシナジーにより、時代に適応した新しい付加価値を提供し変革を支援することで、グループ全体の事業拡大と自らの未来価値の向上を図っています。また、当期はグループの総合力をより一層高めるべく、株式会社リヴァンプとの経営統合を進めています。

加速し続けるデジタルトランスフォーメーション(DX)への対応、AIやIoTの活用による省力化、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの推進などといった経済的かつ社会的な課題の解決に向き合うためには、先進的なテクノロジーとあらゆる分野で培われたノウハウを融合させ、新しい時代に適した価値の創出に挑戦し続けることが重要です。

ビジネスや社会の根幹にITが不可欠な今、フューチャーはあらゆる事象から発生するデータをもとに、微細な変化も可視化するリアルタイムアーキテクチャによって、経営戦略とビジネスプロセスをデザインし実装することで企業や社会のDXを推進しています。これからも真の改革を支援するとともに、お客様のビジネスや社会の持続的な成長と発展に貢献してまいります。

2024年9月



フューチャー株式会社  
代表取締役会長 兼 社長 グループCEO

金丸恭文

# 当グループの現状及び今後の戦略について

## 2024年12月期 中間期の事業概況

### 2024年12月期 中間期のハイライト

01

連結売上高は  
前年同期比16.3%増の

**329億円**

02

連結営業利益は  
前年同期比9.5%増の

**69億円**

2024年12月期中間期の連結業績は、売上高32,954百万円(前年同期比16.3%増)、営業利益6,902百万円(同9.5%増)、親会社株主に帰属する中間純利益4,864百万円(同12.6%増)となりました。

当中間期は、企業のDXや業務改革、生成AIなどを利用した新たなデジタルサービスの創出など、ITを通じた積極的な経営改革が進められました。また、働き方改革関連法の施行や人手不足への対応として、生産性・効率性の向上や業界全体のサプライチェーンの見直し、ESG・SDGs関連分野におけるITの活用も加速しています。個人においては、ECサイト経由での購買、動画やオンラインを活用した娯楽やスポーツ観戦、ネットサービス上での教育・自己啓発などのIT利用が定着し、新たなサービスも生まれました。

当社においては、「次世代バンキングシステム」が1行目の福島銀行様で予定どおりに本番稼働を開始するなど、中長期的な成長に資するプロジェクトが順調に進行した結果、増収・増益となりました。

### 株主還元策

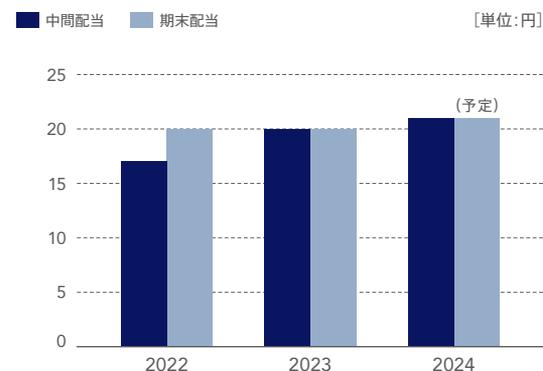
株主の皆様への利益還元を重要な経営課題として位置づけ、持続的な成長を図るための内部留保資金を確保しつつ、期間損益、キャッシュ・フローの状況、自己株式の買付状況などを総合的に勘案して、連結の配当性向35%以上を目安に株主還元を実施しています。

この方針に基づき、2024年12月期の中間配当金については1株当たり21円とすることを決議いたしました。また、期末配当金は1株当たり21円、中間配当金と合計した年間配当金は42円を予定しています。

### [連結] 半期別業績推移



### 1株当たり配当金



# Future Topics

フューチャートピックス

## ITコンサルティング&サービス

### ▶ あらゆる業種や領域においてDX投資は引き続き旺盛

フューチャーは、既存のレガシーシステムの刷新をはじめ、DXによる業務改革や新サービスの立ち上げ、生成AIやロボティクスを組み込んだ実証実験など、様々な領域においてお客様を支援しています。また、システム開発の内製化を志向するお客様のIT組織の強化に向けたコンサルティング案件も増加しています。地域金融機関向け渉外融資支援システム「FutureBANK」やメディア向けCMS (Contents Management System) 「GlyphFeeds」など当社の知財を活用した案件も順調に推移しているほか、製造や生活インフラの分野でもビジネスが拡大しています。

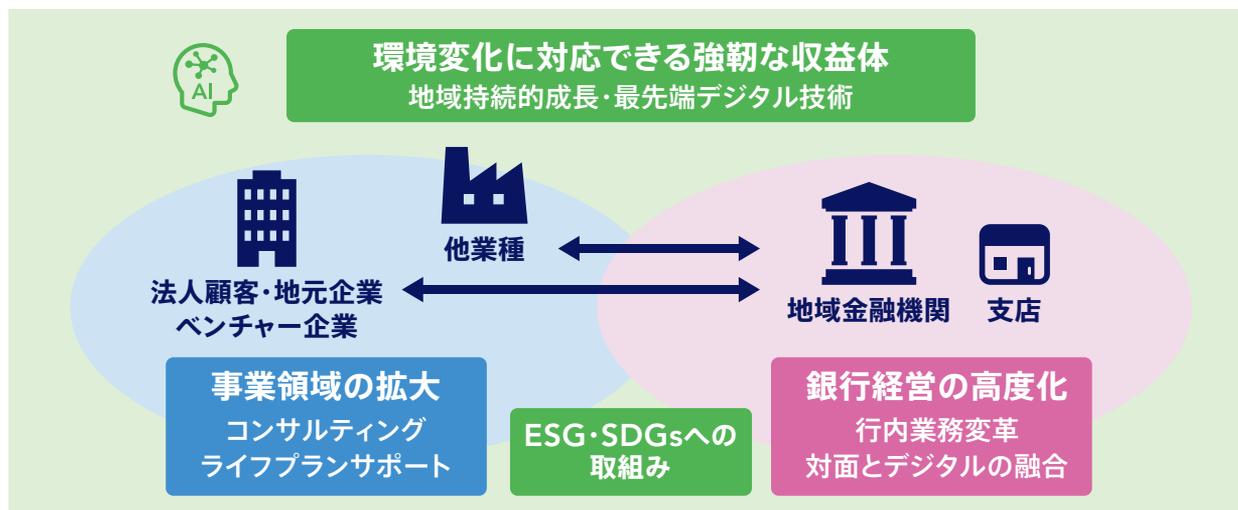


## 地域金融機関のDX推進と地域創生への貢献を支援①

### ▶ 福島銀行様で「次世代バンキングシステム」が計画どおりに本番稼働

フューチャーは、バンキングソリューションを通じて地域のDX推進に貢献しています。福島銀行様では、「次世代バンキングシステム」が計画どおり2024年7月に本番稼働を開始しました。また、2行目となる島根銀行様でも外部接続テストが始まり、開発は順調に推移しています。

「次世代バンキングシステム」は、最新のテクノロジーを用いて設計したクラウド型のサービスであり、メインフレームで稼働していたシステムから「次世代バンキングシステム」への切り替えにより維持管理コストを大きく低減させて投資余力を生み出すことができます。すべてのバンキングサービスをAPI(Application Programming Interface)で提供しているため、他システムとの連携がしやすく、新たなサービスを行いたい場合にも容易に機能を追加できます。また、ペーパーレス業務へのシフトにより行員の業務の効率化やコンサルティング業務への集中が可能になり、地域金融機関の課題の一つである地域活性化への貢献にもつながっています。



フューチャーのバンキングソリューションを通じて  
地域のDX化を推進

# ▶ Future Topics

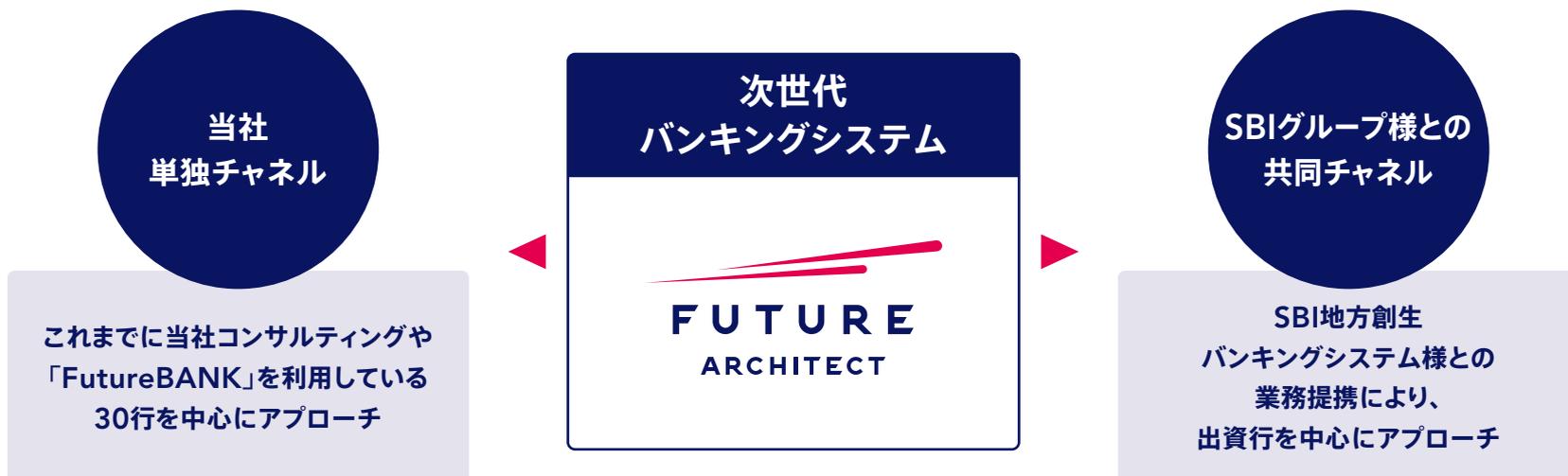
フューチャートピックス

地域金融機関のDX推進と地域創生への貢献を支援②

## ▶ 2つのチャンネルで3行目、4行目のお客様の獲得を目指す

「次世代バンキングシステム」は、フューチャーの中長期的成長に資するプロジェクトであり、株主や投資家の皆様から高い関心が寄せられています。福島銀行様、島根銀行様に続き、2024年下期から2025年上期には3行目、2025年末までに4行目のお客様の獲得を目指します。また、2026年以降は4～5行に同時並行で導入できる体制の確立を目指します。

導入行の拡大に向けたチャンネルは2つあります。一つはSBIグループ様との共同チャンネルであり、SBI地方創生バンキングシステム様との業務提携により、出資行を中心にアプローチしていきます。もう一つはフューチャーの単独チャンネルであり、「FutureBANK」を導入しているお客様における基幹システム刷新のタイミングに合わせて「次世代バンキングシステム」の提案を行っていきます。



地域金融機関のDX推進と地域創生への貢献を支援③

## ▶「FutureBANK」とAI活用でお客様の業務スタイル変革に貢献

渉外融資支援システム「FutureBANK」は、全国30行以上の地域金融機関で導入されており、当期は新たに東邦銀行様ときらぼし銀行様で稼働を開始しました。また、群馬銀行様とは生成AI活用による融資業務の生産性向上に向けた実証実験を開始しました。今後は、「FutureBANK」を導入しているお客様へのアップグレードの提案や、グループ金融機関などへの展開を推進することで、お客様の業務スタイル変革に貢献していきます。

2024年に  
本稼働



FutureBANK  
導入地域



生成AI活用の  
実証実験



# Future Topics

フューチャートピックス

## 生成AIの実業務での活用に向けて①

### ▶ お客様業務や共同研究領域で生成AI活用が拡大

フューチャーは、食品製造業、旅行代理店、製造業など、様々な業種・業界のお客様を対象に生成AI活用による業務改革を支援しています。食品製造業のお客様では、生成AIの全社展開に向けて、当社が独自にチューニングしたAIチャットを導入しました。また、地域金融機関や新聞社など複数のお客様との共同研究も開始し先進的な取組みを加速させるとともに、リサーチャーや研究者などの人材獲得や基礎研究の強化にも注力しています。



## 生成AIの実業務での活用に向けて②

### ▶ レガシーシステム刷新支援に生成AIを導入

ITコンサルティングサービスの一環として、JCL、COBOLなどのレガシーなプログラミング言語でつくられブラックボックス化した基幹システムの刷新を支援する新たなサービスを提供しています。現行システムを科学的に解析する当社独自のツール「Futurefraqta」に生成AIを組み込み、システム全体の構造を効率的に解析・解読して安全かつ高精度の新システムを構築することで、生産性向上の実現を支援しています。



# 特集

## 株式会社リヴァンプとの経営統合が順調に進捗

4月以降は「ビジネス」「品質・テクノロジー」「人材」における取組みを共同推進

フューチャーと株式会社リヴァンプ(以下リヴァンプ)は、経営統合によるシナジーの早期発現に向け、「ビジネス」「品質・テクノロジー」「人材」における情報・ノウハウの共有や共同営業などを進めています。

フューチャーは、お客様の経営戦略とIT戦略を両輪としてデザインし、「お客様の未来価値を最大化させること」をミッションとしています。リヴァンプは、「企業を芯から元気にする」という経営理念のもと、経営支援やDX及び投資といった主要な事業を通じて支援先企業の中長期的な成長の実現に貢献してきました。両者が、新規顧客を獲得して共同でプロジェクトを受注するまでのプロセスを共有することによりさらなる発展が見込めるため、この取組みを優先して進めており、将来に期待できるプロジェクトも既に開始しています。また、お互いに得意であり複数の顧客が共通していた流通分野と、フューチャーが多数の地域金融機関を顧客基盤として有している金融分野を中心に、両者共同での営業も推進しています。

品質及び技術面においては、プロジェクトの受注から運用までのプロセスを可視化して収益管理を行うフューチャー独自のプラットフォームをリヴァンプに導入することで、さらなる収益性の向上を図っています。加えて、品質管理手法や開発ツール群をリヴァンプに提供し、DX事業のさらなる成長に貢献しています。

さらに、4月に入社した新入社員については、いち早く合同研修を実施しました。今後は採用を一元化することで最適な人材の配置を推進していきます。

ビジネス



新規顧客の共同プロジェクトを受注  
流通・金融分野にて共同営業を実施  
経営支援手法の高度デジタル化、フューチャー顧客に展開

品質・  
テクノロジー



フューチャーの経営ノウハウをリヴァンプへ提供  
品質管理手法、コアテクノロジーをリヴァンプに導入

人材



本年度より新人研修を合同で実施、採用の一元化・共通化を推進

# フューチャーの業績・財務状況

## ■ 連結貸借対照表 –決算のポイント–

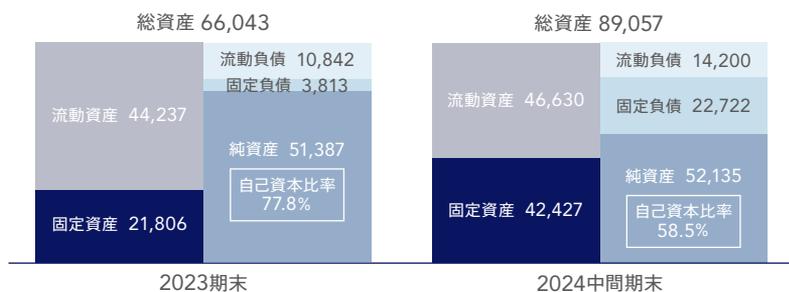
- ▶ 総資産は、のれん、顧客関連資産の増加等により、前期末比23,014百万円増加
- ▶ 負債は、借入金の増加等により、前期末比22,266百万円増加
- ▶ 純資産は、利益剰余金の増加等により、前期末比748百万円増加

[単位:百万円]

	前連結会計年度末 2023年12月31日現在	当中間連結会計期間末 2024年6月30日現在
流動資産	44,237	46,630
固定資産	21,806	42,427
流動負債	10,842	14,200
固定負債	3,813	22,722
純資産	51,387	52,135
総資産	66,043	89,057

### 総資産の推移

[単位:百万円]



※グラフを見やすくするため、数値と高さは比例していません。

## ■ 連結損益計算書 –決算のポイント–

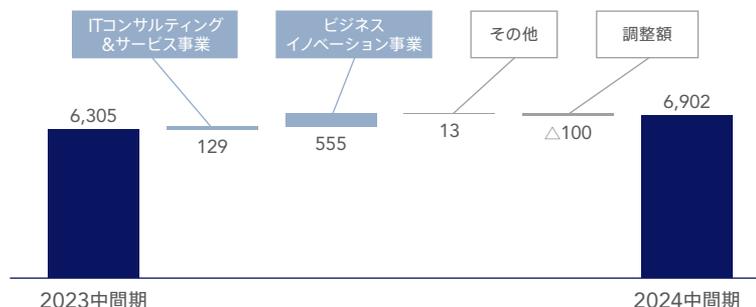
- ▶ ITコンサルティング&サービス事業、ビジネスイノベーション事業ともに増収・増益となり、連結全体の売上高、営業利益、親会社株主に帰属する中間純利益も増収・増益

[単位:百万円]

	前中間連結会計期間 自2023年 1月 1日 至2023年 6月30日	当中間連結会計期間 自2024年 1月 1日 至2024年 6月30日
売上高	28,344	32,954
売上総利益	13,651	15,902
販売費及び一般管理費	7,346	8,999
営業利益	6,305	6,902
経常利益	6,506	7,107
親会社株主に帰属する中間純利益	4,321	4,864

### 営業利益の増減要因

[単位:百万円]



※グラフを見やすくするため、数値と高さは比例していません。

## ■ 連結キャッシュ・フロー計算書ー決算のポイントー

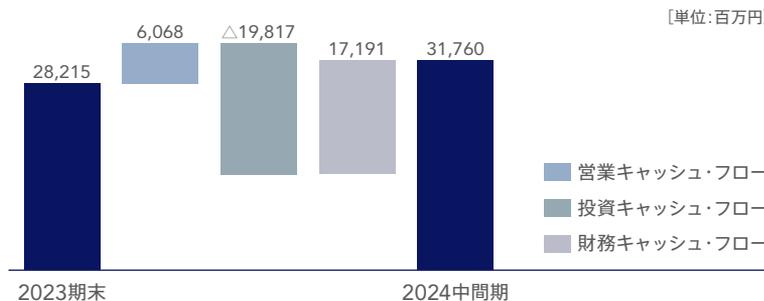
- ▶ 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前中間純利益の計上等により、6,068百万円の収入
- ▶ 投資活動によるキャッシュ・フローは、M&Aに伴う株式の取得等により、19,817百万円の支出

[単位:百万円]

	前中間 連結会計期間 自2023年 1月 1日 至2023年 6月30日	当中間 連結会計期間 自2024年 1月 1日 至2024年 6月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,591	6,068
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,412	△19,817
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,988	17,191
現金及び現金同等物に係る換算差額	34	103
現金及び現金同等物の増加額又は減少額(△)	△2,775	3,544
現金及び現金同等物の期首残高	27,552	28,215
現金及び現金同等物の中間期末残高	24,776	31,760

## キャッシュ・フロー

[単位:百万円]

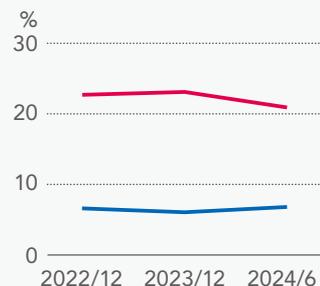


※現金及び現金同等物に係る換算差額については記載を省略しています。それにより生じるグラフの誤差については調整しています。

## ■ フューチャーの投資指標

### 売上高営業利益率

— 当社(連結) — 東証プライム市場平均※1



### 自己資本比率

— 当社(連結) — 東証プライム市場平均※1



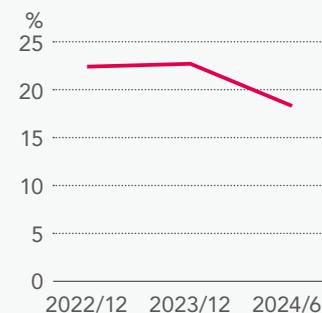
### 自己資本当期純利益率(ROE)※2

— 当社(連結)



### 総資産経常利益率(ROA)※2

— 当社(連結)

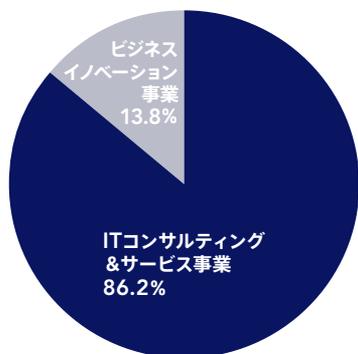


※1 2022年3月期、2023年3月期、2024年3月期決算短信(非連結を含む)を発表した東証プライム市場上場会社のうち、変則決算会社・各期における新規上場会社・金融業に係る集計対象会社を除いた会社の平均値。(出典:東京証券取引所統計資料)

※2 自己資本当期純利益率・総資産経常利益率の2024年6月の数値は年率換算しております。

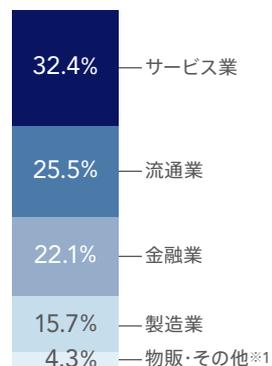
# フューチャーのセグメント別業績・戦略

## ■ セグメント別売上高構成比 2024年中間期



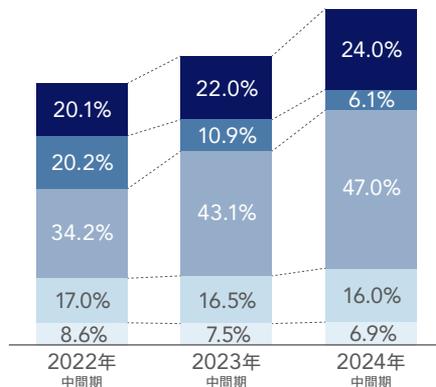
### ITコンサルティング&サービス事業における業種別売上高構成比

2024年中間期



### ITコンサルティング&サービス事業におけるフェーズ別売上高構成比推移

■ グランドデザイン ■ 開発 ■ 物販・その他※2  
■ 設計 ■ 保守運用



※1 「物販・その他」はIT機材の選定・調達・販売のほか、官公庁・地方公共団体等への売上高となります。

※2 「物販・その他」はIT機材の選定・調達・販売のほか、ライセンス販売による売上高となります。

## ■ 2024 上半期レビュー

### ITコンサルティング&サービス事業

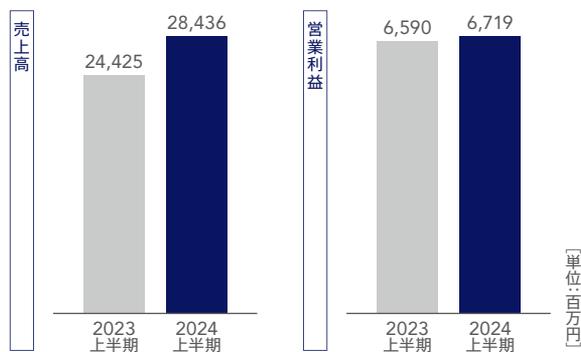
- ▶ フューチャーアーキテクトは、「次世代バンキングシステム」が1行目で安定稼働を開始し、2行目も開発・テストフェーズが順調に推移しました。加えて、「GlyphFeeds」「FutureApparel」といった知財導入案件のほか、多くのお客様のDX支援も堅調に推移したことなどから、増収・増益となりました。
- ▶ フューチャーインスペースは、既存顧客のシステム基盤更改及びクラウド移行案件の開発が好調に推移し、増収・増益となりました。
- ▶ FutureOneは、オリジナル販売管理パッケージソフト「InfiniOne」の受注が拡大したものの、大型の開発案件がピークアウトした影響で減収・減益となりました。
- ▶ ワイ・ディ・シーは、「Smart Factory」の構築が売上を牽引したものの、人的資産を含む積極的な投資などにより、増収・減益となりました。
- ▶ ディアイティは、サイバーセキュリティ関連の売上が増加した一方、広告宣伝や採用への積極的な投資によるコスト増により、減収・減益となりました。
- ▶ リヴァンプは、ヘルスケア分野の経営マーケティング案件を新規受注するなど、業績は堅調に推移しています。なお、当第2四半期連結会計期間から同社を新規に連結しています。

### ビジネスイノベーション事業

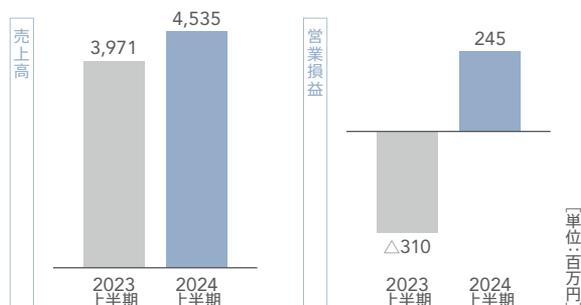
- ▶ YOCABITOは、商品の仕入から販売までの管理体制を変更して単品ごとの販売促進施策を進めたことで粗利率が改善し、営業損失額が減少しました。
- ▶ 東京カレンダーは、メディア事業における広告売上などが堅調に推移したことに加え、コスト改善施策を進めたことで増収・増益となりました。
- ▶ ライブリッツは、会員管理・ECパッケージ「FastBiz」の複数案件が開発フェーズへ移行したことに加え、esports事業の新規案件を受注したことから、増収・増益となりました。
- ▶ キュリオシティは、ジュエリー、腕時計など海外ラグジュアリーブランドの大型ストアデザインが順調に進捗するなど、売上・収益ともに順調に推移しています。

## ■ 2024 上半期実績

### ITコンサルティング&サービス事業



### ビジネスイノベーション事業



## ■ 今後の見通し

### ITコンサルティング&サービス事業

- ▶ フューチャーアーキテクトは、経営改革を図る多様な業種の顧客から基幹システム刷新などの案件を受注しており、業界の長年の課題解決に資するITソリューションの提供に取り組んでいます。物流業界・流通小売業界向けには、2024年問題を解消するためのソリューションとして、AIによる配送ルート最適化などをお客様とともに推進しています。また、1行目を安定稼働させた「次世代バンキングシステム」については、新規行の獲得を目指します。
- ▶ フューチャーインスペースは、複数の大型プロジェクトの開発を安定的に進めるため、さらなる開発品質向上と人材採用・育成に注力します。
- ▶ FutureOneは、「InfiniOne」の業界特化型の営業展開による受注拡大を図るとともに、製品強化にも努め、製販一体でのトータルソリューション提供を目指します。
- ▶ ワイ・ディ・シーは、製造業向けDXコンサルティングと「Smart Factory」構築に加え、グループシナジーによる物流領域でのビジネス拡大を狙います。
- ▶ ディアイティは、危機管理対応とセキュリティ診断サービスに注力し、子会社のサイバー・ソリューションと共同でセキュリティライフサイクルを提供していきます。また、フューチャーグループの既存顧客へセキュリティサービスを提供することでシナジーを追求します。
- ▶ リヴァンプは、経営マーケティング事業及びDX事業において、フューチャーグループのリソースとノウハウを最大限に活用し、共同案件などによるシナジーの早期創出を図ります。

### ビジネスイノベーション事業

- ▶ YOCABITOは、デジタルプラットフォームの活用によるアナリティクス精度の向上とデータドリブンによる迅速な意思決定を引き続き強化するとともに、継続的なコスト削減による収益改善に努めます。
- ▶ 東京カレンダーは、ユーザーデータの利活用及びデジタルプロモーションの強化により、「東カレデート」「グルカレ」などへの集客力とユーザーエンゲージメントを一層高めていきます。
- ▶ ライブリッツは、スポーツ分野で培ったデータ分析技術や、コンテンツを活用したファンサービスを通じてビジネスを拡大するシステムを、esportsをはじめとするエンターテインメント分野に応用し、さらなる成長を目指します。
- ▶ キュリオシティは、プロジェクト規模の大きい高級ホテルなどのインテリアデザイン事業に注力するほか、世界的ブランドのストアデザインをお客様の世界展開に合わせて継続的に受注していきます。

## 会社概要(2024年6月30日現在)

会社名	フューチャー株式会社
英文社名	Future Corporation
設立	1989年11月28日
資本金	40億円
従業員数	3,505名(連結)

## 役員(2024年6月30日現在)

代表取締役会長 兼 社長	金丸 恭文
取締役副社長	石橋 国人
取締役	神宮 由紀
取締役	谷口 友彦
取締役CTO	齋藤 洋平
取締役	山岡 浩巳
取締役(常勤監査等委員)	市原 令之
取締役(監査等委員)	川本 明
取締役(監査等委員)	榊原 美紀
取締役(監査等委員)	西浦 由希子
取締役(監査等委員)	竹内 明日香

## 主要な連結子会社の状況(2024年6月30日現在)

■フューチャーアーキテクト株式会社	
■フューチャーインスペース株式会社	
■FutureOne株式会社	
■株式会社リヴァンプ	
■株式会社ワイ・ディ・シー	
■株式会社ディアイティ	
■イノベーション・ラボラトリ株式会社	
■株式会社YOCABITO	
■東京カレンダー株式会社	
■コードキャンプ株式会社	
■ライブリッツ株式会社	
■株式会社キュリオシティ	
■フューチャーインベストメント株式会社	他8社

## 主な事業所(2024年6月30日現在)

本社	〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2 アートヴィレッジ大崎セントラルタワー TEL : 03-5740-5721 FAX : 03-5740-5820
名古屋オフィス	愛知県名古屋市中区
大阪オフィス	大阪府大阪市中央区
福岡オフィス	福岡県福岡市博多区
鹿児島オフィス	鹿児島県鹿児島市

## 株式の状況(2024年6月30日現在)

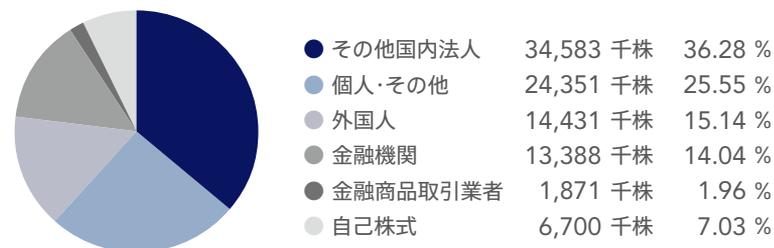
発行可能株式総数 378,752,000株  
 発行済株式の総数 95,328,000株  
 株主数 7,431名

### 大株主

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
合同会社キーウェスト・ネットワーク	30,187	34.0
金丸 恭文	11,117	12.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,556	7.3
SGホールディングス株式会社	4,000	4.5
株式会社日本カस्टディ銀行(信託口)	3,897	4.3
野村信託銀行株式会社(投信口)	1,722	1.9
石橋 国人	1,236	1.3
フューチャー従業員持株会	1,199	1.3
モリヤマ ヒロシ	1,164	1.3
JPモルガン証券株式会社	670	0.7

※1 当社は、自己株式を6,700千株保有していますが、上記大株主からは除外しています。  
 ※2 持株比率は自己株式(6,700千株)を控除して計算しています。

### 株式の所有者別状況



#### ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三井住友信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座管理機関(三井住友信託銀行)にお問合せください。なお、三井住友信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本支店でお支払いいたします。

## 株主メモ

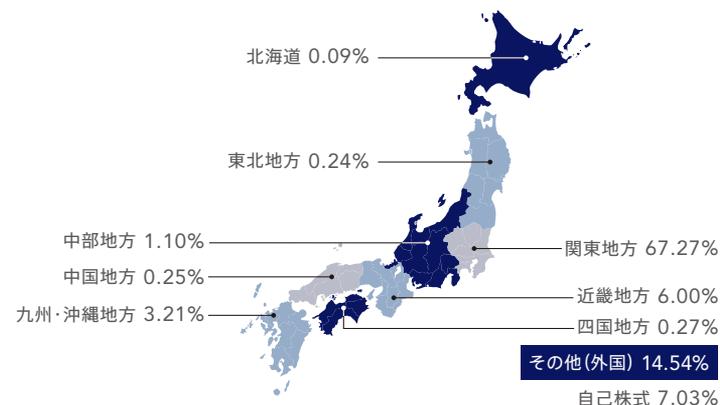
決算期 12月31日 期末配当基準日 12月31日  
 定時株主総会 3月 中間配当基準日 6月30日

株主名簿管理人・特別口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社  
 (連絡先・照会先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 フリーダイヤル:0120-782-031  
 ホームページ:

<https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

公告掲載URL [https://www.future.co.jp/investor\\_relations/notice/](https://www.future.co.jp/investor_relations/notice/)  
 ただし、やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合には、日本経済新聞に公告いたします。

### 株式の所在地別状況



#### 注意事項

本レポートには、現時点における情報に基づいた将来にかかわる予測が含まれております。それらは今後の日本経済やITサービス業界の動向などにより、変動する可能性がございます。従って、当社がその確実性を保証または約束するものではないことも予めご承知おきください。

# Future Report 2024

フューチャー株式会社

本社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2

<https://www.future.co.jp>

表紙写真: ジークスター東京

「ジークスター東京」は、フューチャーグループのジークスタースポーツエンターテインメント株式会社が運営・マネジメントするリーグH（日本ハンドボールリーグより名称変更）所属チームです。